

「途上国支援」要素に 中古衣料リユースに新たな切り口

故繊維リサイクル市場に閉塞感がさらに強まるなか、新たな切り口から使用済み衣料の再利用システムの構築をめざす試みが出てきた。

中古衣料のリユースではこれまでのリユース業者を中心とした市場流通に加え、大手百貨店や量販店などが販売戦略の一環として行う使用済み製品の買い取り、無償引取システムなどがあった。また最近では古本や中古ソフトの流通業者が自社料を回収するシステムや、繊維メーカーが一部素材

製品に特化して回収、再原料化するリサイクルシステムなどさまざまな仕組みができていた。

今回、新たな取り組みとして注目されているのは、リサイクルショップ等では買取りができない衣類など、これまでは不採算品とされていた衣類等を顧客からサイクルコストを徴収することで有効利用させるといった仕組み。「ワンコイン・エコ」と名付けられたこのシステムでは、リサイクルショップ等では買取りができない衣類でも廃棄せずに有効利用することを前提に、

顧客にそのためのコストとして500円の負担を求め、業者はこれら不用品とワクチンをセットにして開発途上国に供給する。

国際的な中古品市場の縮小と市況低下が進む一方で、開発途上国では衣料品を始めとする生活物資等の支援が求められる状況に変わりはない。そのようなニーズがあるにもかかわらず事業として成立し得なかった最大の理由は販売価格が極端に安く、回収・加工・輸出コストが回収できない点にある。

一方、国内リサイクルショップの買取サービスでは持ち込まれた衣類の1〜2割しか買取対象とはならず、大半がゴミとして廃棄される現状があった。今回のシステムはこれら従来の課題を解決し、さらに途上国支援という新たな要素を加えることで、環境問題や人権問題に関心のある市民層に訴えていこうというもの。当初、500円の費用負担がどこまで一般に受け入れられるものかという疑問もあったが、ワクチンとのセットで開発途上国支援に活用されるという趣旨が広く理解され、仕組みそのものの認知度とともに規模も徐々に広がっている。